

# 環境活動レポート

【期間 2012年4月～2013年3月】

都生工業株式会社

2013年5月10日 作成

## 1. 当社概要

認証登録範囲は全事業所を対象とする。

### (1) 事業所名及び代表者名

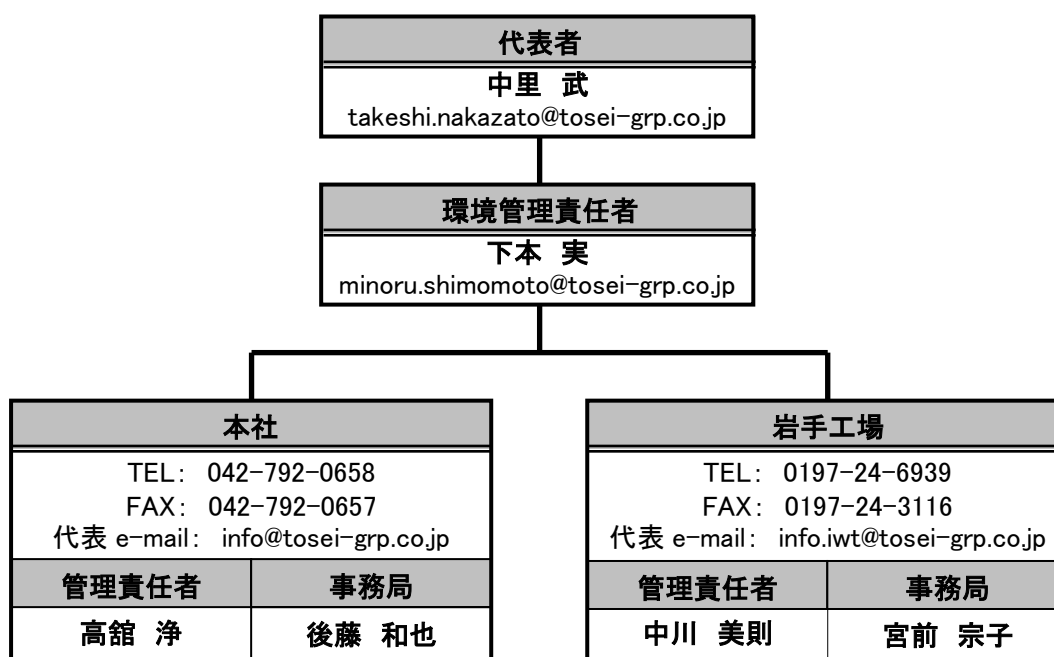
都生工業株式会社 代表取締役 中里 武

### (2) 所在地

本 社 〒194-0035 東京都町田市忠生 1 丁目 28 番地 5

岩手工場 〒023-0132 岩手県奥州市水沢区羽田町字窪 34 番地

### (3) 環境管理責任者及び担当連絡先



### (4) 事業内容

本 社 各種ダンボール製函、発砲スチロールカット、梱包資材販売  
 岩手工場 農機部品製造(鍛造)

### (5) 事業規模

資本金 1,000 万円

	本 社		岩手工場	
	2011 年度	2012 年度	2011 年度	2012 年度
従業員数 [人]	13	15	15	16
売上 [百万円]	162	163.9	279	242
床面積 [㎡]	1,067	1,067	1,106	1,106
敷地面積 [㎡]	1,928	1,928	4,834	4,834

## 2. 環境方針

当社は次の環境方針に基づき環境活動を行ってまいります。

### 基本理念

資源循環型社会を推進している都生工業株式会社では、ダンボールケース・梱包資材設計／製造・農機部品設計／製造における事業活動を通して、常に環境負荷の低減化を考えて行動します。

### 環境行動

1. エコアクション 21 環境経営システム構築に取組み、その実施運営において、環境関連法令・条例等を厳守するとともに、地域・業界・顧客の環境保全に関する要求事項に配慮し、環境活動の持続的な改善を進めてまいります。
2. 環境目標及び環境取組計画として下記事項を重点項目に設定し、必要に応じてその内容を見直し、環境方針に整合した環境行動を実施します。
  - (1) 電力、燃料等の使用量を削減し、二酸化炭素排出量軽減のため、省エネルギー化を推進する。
  - (2) 適切な上水使用を実践し、総排水量の削減を推進する。
  - (3) 廃棄物を徹底的に分別し、古紙リサイクルを推進する。
  - (4) 化学物質(本社：酢酸ビニル、岩手工場：ニッケル)の使用量の把握と管理を行う。
  - (5) ダンボール箱製造工程における端材を再利用し、廃棄物量を削減する。
  - (6) グリーン購入を促進する。
3. 事業を通じ、資源循環型社会構築に貢献するため、エコアクション 21 環境経営の実施状況を内外に報告する。
4. 都生工業株式会社および社外にこの環境方針を周知する。

平成 24 年 04 月 11 日

都生工業株式会社

代表取締役社長

中 里 武

### 3. 環境目標

#### (1) 主な環境負荷の実績

環境目標設定のため過去 3 年間にさかのぼり、現状の環境に対する負荷状況を本社、岩手工場に  
分けて調査した。

##### ① 本社

		2009 年度	2010 年度	2011 年度
CO <sub>2</sub> 排出量 [kg-CO <sub>2</sub> ]		47,333	47,171	39,840
内 訳 [%]	電力	60.7	64.4	63.3
	ガソリン	19.1	16.3	14.6
	軽油	19.8	18.8	21.3
	LPG	0.4	0.5	0.8
廃棄物排出量 [t]		9.94	9.19	8.06
※上水使用量 [m <sup>3</sup> ]		6.7	86.6	102.4

※上水については 2010 年 3 月に設置したため、2009 年度の記録は 3 月のみ。

##### ② 岩手工場

		2009 年度	2010 年度	2011 年度
CO <sub>2</sub> 排出量 [kg-CO <sub>2</sub> ]		401,148	430,749	479,923
内 訳 [%]	電力	17.5	20.9	17.2
	重油	60.1	62.4	63.5
	灯油	1.7	1.8	1.3
	LPG	19.3	13.6	16.7
	ガソリン	0.7	0.7	0.7
	軽油	0.2	0.2	0.2
	廃油	0.5	0.4	0.4
廃棄物排出量 [t]		59.23	70.23	58.91
上水使用量 [m <sup>3</sup> ]		592	204	138

## (2) 環境目標選定とその理由

### 本社

#### ① 基準年設定

当初設定していた 2008 年からの状況変化に伴い、新たに基準年を 2011 年度実績値とする。  
また、2011 年度は既にエコアクション 21 活動を実施していることから、削減率を最低の 1% に設定する。

#### ② CO<sub>2</sub> 排出量

ガソリン使用量に関しては昨年度より営業車が 1 台減少したため、現在使用されている営業車のみに着目し、目標値を設定する。但し、営業車 #2 に関して年間通しての使用頻度が現在とは異なるため、2010 年度 部長営業車のガソリン使用量実績値 1,957ℓに対し、この 3 割減の値(1,368ℓ/年、114ℓ/月)を営業車#2 の暫定目標値とする。2012 年度以降の目標値は本年度実績を基準値として算定する。

LPG 使用量に関しては生活用として使用するのみで消費比重が低いため、環境目標値を設定せず計測のみを実施する。

#### ③ 廃棄物排出量

古紙リサイクルに関しては常に達成率 100%であることから環境目標項目から削除するが、取組項目としては実施し、リサイクル量を測定する。

製品製造時に発生するダンボール端材を利用して他製品の製造を行い、廃棄物量の削減を図る。目標値は前年度数値を考慮し、これを上回るように暫定的に設定する。

#### ④ 上水使用量

生活用として使用するのみで消費比重が低いため、環境目標値を設定せず計測のみを実施する。なお、上水のみでなく地下水使用量も計測する。

#### ⑤ PRPT 制度対象化学物質

セビアン-A(ダンボール接着糊)に含まれる酢酸ビニルが対象となるため、これを管理徹底し使用量を把握する。

## 岩手工場

### ① 基準年設定

2011 年度 目標未達成項目があることから、基準年度は 2008 年度のまま継続する。  
但し、破棄物排出量に関しては 2011 年度を基準値とする。

### ② CO<sub>2</sub> 排出量

岩手工場では基準年度 2008 年では CO<sub>2</sub> 排出量のうち、重油 66%、電力 16%、LPG16%程度であることがわかった。

2012 年度の目標値は前年度 目標値未達成であることから 2011 年度の削減割合を継続して設定する。

2011 年 3 月 11 日発生した東日本大震災に伴う電力供給不足が予想される。目標値設定は 2011 年度通年で 2%削減を試みるが、これ以上の削減を各自意識するように心がけたい。

集中生産方式により重油の使用を削減する。

ガソリン、軽油は使用しているが他のエネルギー項目より消費比重が低いため、環境目標は設定せず使用量計測のみを実施する。

### ③ 廃棄物排出量

これまでの測定内容に洩れがあったことから、目標値を大幅に超過することが予想される。  
廃棄物排出量のみ 2011 年度実績を基準値として削減量を設定する。

### ④ 上水使用量

2011 年度 地下水導入により上水使用量実績値が 2 m<sup>3</sup>/月程度と少ない。また、地下水は流量計がなく測定不可能であることから、目標値を設定せず節水を励行するよう目標内容を変更する。上水使用量の計測は継続して行う。

### ⑤ PRPT 制度対象化学物質

ニッケルが PRPT 制度対象化学物質となるため、これを管理徹底し使用量を把握する。

## (3) 環境目標

## 1. 本社

環境目標	基準値 2011 年度実績 2011 年 4 月～ 2012 年 3 月	目標 (対基準年)		中長期目標	
		通年 2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
1. CO <sub>2</sub> 排出量削減[kg-CO <sub>2</sub> ]		(※1) 44,693			
①電力使用量削減[kWh]	67,302	1%削減 66,628	1%削減 66,628	1%削減 66,628	2%削減 65,955
②ガソリン使用量削減[ℓ]	全車両 2,506	1%削減	1%削減	1%削減	2%削減
	営業車#1 965	955	955	955	945
	営業車#2 474	(※2) 1,368	(※3)	(※3)	(※3)
	部長車 1,068	-	-	-	-
③軽油使用量削減[ℓ]	3,228	1%削減 3,195	1%削減 3,195	1%削減 3,195	1%削減 3,195
2. 廃棄物排出量削減		1%削減	1%削減	1%削減	2%削減
①一般廃棄物量削減[kg]	293	290	290	290	287
②端材ダンボール商品化 による廃棄物削減[kg]	210	300	300	300	300
3. 水道使用量削減[m <sup>3</sup> ]	上水 201	節水	節水	節水	節水
	地下水 138				
4. 化学物質管理・ 使用量の把握	管理徹底 含有量 480[g]	管理徹底	管理徹底	管理徹底	管理徹底
5. グリーン購入の促進	1.4 品	5 品購入	5 品購入	5 品購入	5 品購入

※1：電力使用の CO<sub>2</sub> 排出係数 東京電力(株) 平成 22 年度実績 0.464[kg-CO<sub>2</sub>/kWh]

※2：営業車#2 の 2011 年度実績は稼働が少ないため、推測値を算定し暫定目標値とする。

※3：2012 年度実績により目標値を算定する。

## 2. 岩手工場

環境目標	基準値 2008 年度実績 2008 年 9 月～ 2009 年 8 月	目標 (対基準年)		中長期目標	
		通年 2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
1. CO <sub>2</sub> 排出量削減[kg-CO <sub>2</sub> ]		(※1) 461,105			
①電力使用量削減[kWh]	191,070	2%削減 187,248	2%削減 187,248	3%削減 185,337	3%削減 185,337
②重油使用量削減[ℓ]	110,080	3%削減 106,777	3%削減 106,777	5%削減 104,576	5%削減 104,576
③LP ガス使用量削減[kg]	23,575	2%削減 23,103	2%削減 23,103	3%削減 22,867	3%削減 22,867
2. 廃棄物排出量削減		5%削減	5%削減	7%削減	7%削減
一般廃棄物量削減[kg]	(※2) 540	513	513	502	502
3. 水道使用量削減[m <sup>3</sup> ]	138	節水	節水	節水	節水
4. 化学物質管理・ 使用量の把握	実績なし	管理徹底	管理徹底	管理徹底	管理徹底
5. グリーン購入の促進	実績なし	5 品購入	5 品購入	5 品購入	5 品購入

※1：電力使用の CO<sub>2</sub> 排出係数 東北電力(株) 平成 22 年度実績 0.547[kg-CO<sub>2</sub>/kWh]

※2：廃棄物排出量に限り実績は 2011 年度

## 4. 環境活動計画と実績

## (1) 環境活動取組項目

当社は環境活動における環境への負荷を軽減するため以下の取組を実施し、その達成状況、活動実施状況を毎月エコアクション会議で報告すると共に、確認と見直しを実施しています。

項 目	適 用	
	本社	岩手
(1) CO <sub>2</sub> 排出量削減		
①休憩時間における工場内設備の電源OFF	○	○
②不要照明、電気製品の電源OFF（社内に節電掲示）	○	○
③作業終了時の電源OFF、消灯確認	○	○
④不要天井蛍光灯の排除	○	—
⑤エアコン温度管理の徹底の実施	○	○
⑥商品配送・収集計画の効率化	○	—
⑦車両点検整備の実施	○	○
⑧エコドライブの実施	○	○
⑨重油使用量を毎日計測し、製造商品と使用量を把握	—	○
⑩効率の良い製造計画	—	○
(2) 廃棄物排出量削減		
①廃棄物分別の徹底	○	○
②廃棄物量計測の実施し、廃棄物量を把握	○	○
③両面印刷・縮小印刷・裏紙使用の実施	○	○
④古紙・ダンボール屑・鉄屑のリサイクル徹底	○	○
⑤ダンボール端材を再利用し、廃棄物量を削減	○	—
(3) 水道使用量削減		
①社内節水掲示により手洗い時の節水を徹底（社内に節水掲示）	○	○
②冷却水の節水を徹底	—	○
(4) 特定化学物質の管理徹底と使用量の把握		
①酢酸ビニル	○	—
②ニッケル	—	○
(5) グリーン購入促進		
①エコマーク・グリーンマーク商品購入の拡大	○	○
②コピー用紙（エコマーク商品）は白色度を下げたものを購入	○	○



## (2) 環境活動実績

## ① 本社

環境目標	目標値	実績値	評価
1. CO <sub>2</sub> 排出量削減[kg-CO <sub>2</sub> ] (※1)	44,693	43,567	○
電力使用量削減[kWh]	66,628	64,923	○
ガソリン使用量削減[ℓ]	2,323	2,015	○
軽油使用量削減[ℓ]	3,195	3,228	×
2. 廃棄物排出量削減			
一般廃棄物量削減[kg]	290	256	○
端材ダンボール商品化による廃棄物削減[kg]	300	254	△
3. 水道使用量削減[m <sup>3</sup> ]	節水	実施 地下水：114.4 上水：100.9	○
4. 化学物質管理・使用量の把握	使用量把握 管理徹底	実施 酢酸ビニル含有量 540g	○
5. グリーン購入の促進	エコマーク商品 3品購入	実施 購入月平均3.1品	○

※1：電力使用のCO<sub>2</sub>排出係数 東京電力(株) 平成22年度実績 0.464[kg-CO<sub>2</sub>/kWh]

## ② 岩手工場

環境目標	目標値	実績値	評価
1. CO <sub>2</sub> 排出量削減[kg-CO <sub>2</sub> ] (※1)	461,105	495,566	○(※2)
電力使用量削減[kWh]	187,248	217,014	○(※2)
重油使用量削減[ℓ]	106,777	111,040	○(※2)
LPガス使用量削減[kg]	23,103	25,311	○(※2)
2. 廃棄物排出量削減			
一般廃棄物量削減[kg]	513	707	×
3. 水道使用量削減[m <sup>3</sup> ]	節水	実施 上水：101	○
4. 化学物質管理・使用量の把握	使用量把握 管理徹底	実施 ニッケル使用量 1,447kg	○
5. グリーン購入の促進	エコマーク商品 5品購入	実施 購入月平均5.5品	○

※1：電力使用のCO<sub>2</sub>排出係数 東北電力(株) 平成22年度実績 0.547[kg-CO<sub>2</sub>/kWh]

※2：目標値との数値比較ではなく、活動内容により評価している。

「5. 環境活動の取組結果の評価と今後の対応」参照。

## 5. 環境活動の取組結果の評価と今後の対応

### (1) 本社

#### ① CO<sub>2</sub>排出量削減

軽油使用量以外目標値達成できた。

電力使用量は前年度比からマイナス月が7ヶ月、特に1~3月は-10%以上を記録している。

1~3月におけるダンボール社内製造を仕入平米数により着目してみると、1月は前年度より多いが、2月：800㎡、3月：2,400㎡少ないことから、これが要因と考えられる。また、1階事務所が撤退したことも要因の1つとして考えられる。

電力使用量は昨年度より少ないが、二酸化炭素排出という点では今年度の二酸化炭素排出係数が昨年度よりも大きいいため排出量は増える結果になっている。

軽油使用量は目標未達成であったが、目標値とそれほど大差はない。特に3月に限り、配送量は増加していないにも関わらず使用量が多いため、トラックに異常がないか4月に点検を依頼する。また、来年度からは走行距離も記録し燃費で換算できるようにする。

営業車#2(後藤担当者)の今年度のガソリン使用量目標値は、利用頻度が前年度と異なるため推測値として設定した。来年度の目標値は今年度の実績より設定する。

#### ② 廃棄物排出量の削減

端材再利用による廃棄物量削減の項目は実績としては未達成ではあるが、目標値は前年度から暫定値であり、本項目は実施されることに意義があるため特に問題視しない。但し、今後も目標値に近づけるように努力する。

#### ③ 水道使用量の削減

目標値はないが今後も節水を心掛けるよう各自周知徹底する。

#### ④ 化学物質管理・使用量の把握

購入量の把握、管理共にできている。今後も管理徹底する。

#### ⑤ グリーン購入

事務用品を購入に関して、エコマーク商品を再確認することで、購入商品数が増加した。

今後もグリーン商品優先して購入していきたい。

## (2) 岩手工場

### ① CO<sub>2</sub> 排出量削減

全項目において目標値未達成となった。

目標達成できた月は「電力」・「重油」：5～9 月、「LPG」：6～9 月の夏季で、やはり需要が増加する秋～春先までの月で目標値超過している。

生産量は去年度より増加しており、需要が高まる以上目標値達成は難しい。

基準年度である 2008 年度生産量は 256.0[t]、2012 年度生産量は 294.8[t] となり 15%程度増加している。これに対し、各項目使用量の増加割合は電力：15.9%、重油：4.0%、LPG：9.6% となり、重油、LPG の使用増加割合は生産量の増加割合以下で推移していることがわかる。また、電力使用量に関しても 1%以下の増加割合であり、電力を多用する溶射工程が基準年から比べ、増加していることが要因と考えられる。但し、溶射工程は製品寿命を延ばすための工程であるため、それを考慮した上で目標達成していると評価できる。

今後、単純に使用量で目標値を設定せず、製造量を考慮した目標値を考えたい。

### ② 廃棄物排出量の削減

回収業者に依頼してから廃棄物が頻繁に回収されるようになり、以前より工場内が整理されている。

溶射の作業量が増え、その工程に使用する材料の廃材容器が増えている為、今後、業者に回収可能か確認を取る。

その他作業の際使用する軍手などの利用を考え削減に努めたい。

### ③ 水道使用量の削減

2012 年度計画当初、2 m<sup>3</sup>/月程度の予想使用量であったが、冬期に地下水が凍結したため各設備への冷却水として上水を一部利用した。このため使用量が予想以上に増加した。

### ④ 化学物質管理・使用量の把握

購入量の把握、保管箱を製作し管理している。今後も管理徹底する。

### ⑤ グリーン購入

目標値達成できている。今後もグリーン商品優先して購入していきたい。

(3) 次年度の取組内容

取組項目は本年度と同様の項目に取り組むこととする。但し、以下の点を配慮する。

➤ 本社・岩手工場共通項目

エネルギー関連使用量に対し、生産量に見合った目標値の設定もしくは指標を追加する。  
事業内容に関連する環境活動項目については随時内容検討の上、新規に追加していきたい。

➤ 本社

営業車#2 ガソリン使用量の目標値に関しては、今年度の実績値を考慮し設定する。

➤ 岩手工場

「古紙リサイクル」に関しては常に達成率 100%であることから、来年度の環境目標項目から削除する。但し、取組項目として実施しリサイクル量を測定する。

冬期に冷却水として上水を使用し予想量より増加したが、増加量はそれほど大きくないため、特に目標値を定めず節水を励行する。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

弊社の遵守すべき環境関連法規、条例を確認した結果、違反のないことを自主的に確認した。

なお、これら法規制に関する関係当局からの違反の指摘、及び関連する訴訟は過去3年間ありません。

## 7. 代表者による全体の評価と見直しの結果

### 【開催日】

2013 年 4 月 6 日

### 【出席者】

代表取締役、環境管理責任者、本社社員

### 【開催場所】

本社 3 階

### 【議事内容】

#### ➤ 本社

CO<sub>2</sub>排出量削減において軽油使用量が目標値達成できない結果となった。

配送業務において走行距離を記録することで、燃料使用に異常がないかを把握すると共に燃費計算にも役立つ。また、営業活動の行動範囲が広くなれば当然使用量は増える傾向になる。

但し、売上金額との関係性は少ないため、毎日の営業活動に関しても営業報告書に走行距離を明記する。

東京都の新しい条例として「東京都帰宅困難者対策条例」が 2013 年 4 月 1 日より施行された。事業所として条例に対する体制を整える。

#### ➤ 岩手工場

岩手工場における CO<sub>2</sub>排出量削減の全項目において、目標値を達成できなかった。

生産量として昨年度より増加傾向にあるため、目標値を超過する要因になっている。単純に目標値を見直すのではなく、製造度合を仕入原料の重量等より換算し、目標値を設定する指標を考える必要がある。会社として「売上を上げる」という当然な目標があるため、製造量が増加することはエネルギー使用量を増加させる結果になることは当然である。本内容を踏まえ本社における社内生産量も社内製造平米数を把握して、その関係を追求する。